

令和4年8月3日、4日の
知事白山登山検証
(最終版)

知事白山登山庁内検証チーム

1. 気象概況

8月1日から6日にかけて、日本海から東北地方・北陸地方にのびる前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、東北地方及び北陸地方を中心に大雨となった。

特に、8月3日からは、前線上の低気圧が日本海から東北地方を横断。前線は次第に南下し東北地方や北陸地方に停滞した。4日は北陸地方に前線が停滞したことにより断続的に猛烈な雨が降り、本県や福井県で記録的な大雨となった。

2. 白山登山の行程

(1) 登山前日 (8/2)

<u>21:00</u> 3日午後から雨予報のため、翌朝の出発時間を変更 (8:30→6:45)

(2) 1日目 (8/3)

<u>6:45</u> 別当出合出発
<u>12:15</u> 知事 室堂ビジターセンター到着 以降順次到着
~ <u>12:55</u> (室堂泊)

(3) 2日目 (8/4)

<u>4:00</u> 起床
<u>7:00</u> 出発予定を延期(天候の回復を待つ)
<u>8:40</u> 知事 室堂出発
<u>9:00</u> 他職員 室堂出発
<u>12:40</u> 知事 別当出合到着 以降順次到着
~ <u>14:00</u> 別当出合到着後順次市ノ瀬に移動 (市ノ瀬泊)

(4) 3日目 (8/5)

<u>5:30</u> 通行規制解除
<u>5:50</u> 市ノ瀬出発県庁へ

3. 登山及び下山の判断について

(1) 登山中止の判断について

(当時の状況)

判断のタイミングとして日程を変更した8月2日の夜または8月3日の出発前が考えられるが、この時点では、石川県に大雨注意報も発表されておらず、大雨注意報ないし警報が発表されていたのは東北北部の青森県、秋田県、岩手県の3県のみであった。しかし、8月2日の17時に金沢地方気象台から、数日後に警報級の大雨が降る可能性がある際に出される「大雨に関する石川県気象情報(第1号)」が発表されている。

当該情報では、条件付きではあるものの、警報級の大雨になるおそれがあるとの予想がされていたが、知事及び関係者間ではこの情報が共有されていなかった。

(検証)

今回の白山登山について、登山前の気象情報から、加賀地方において記録的な大雨となり、加賀南部を中心に甚大な被害が発生することを、事前に予見することは不可能であったと考えられるものの、条件付きではあるが、警報級の大雨になるおそれがあるとの情報が発表されており、結果として、

- ・孤立集落が発生し、自衛隊に派遣要請をする事態が生じた
- ・石川県という行政機関の長であり、災害対策本部長である知事が、石川県内で孤立し、災害対策本部の立ち上げ時に県庁にいないことができなかった
- ・県道白山公園線の通行規制もあり、白山から下山後も県庁に戻るまでに時間がかかった

ことは大変遺憾なことである。

これらのことを考慮すれば、登山という特殊な業務の遂行には、幅広く気象情報を収集したうえで、あらゆる可能性を想定する必要があったと考えられ、登山を中止すべき判断もあったと考えられる。

石川県全域に影響を及ぼす広域の気象条件に目配りする必要があったことや、複数の交通手段や経路がある東京などと異なり、白山から県庁に戻る選択肢は多くないことを改めて認識した出来事であり、災害対策本部長として、今後の判断の参考にすべき事案である。

(2) 日帰り登山への変更について

(当時の状況)

全員が室堂ビジターセンターに到着した後(13時頃)も依然として石川県に大雨注意報は発表されていなかったものの、金沢地方気象台から、3日5時42分に「大雨に関する石川県気象情報(第2号)」が発表され、2日17時発表の第1号に引き続き、警報級の大雨になるおそれがあるとの予想がされていたが、2日夜と同様に、知事及び関係者間ではこの情報の共有がなされていなかった。

(検証)

全員が室堂に到着した時点(13時頃)では、4日の朝から加賀方面が警報級の大雨になるとは予想できなかったと考えられる。

また、日帰り登山とするには、下山に要する時間(4~5時間)を考慮すると13時までに室堂を出発する必要があるが、13時からの下山は、室堂到着後、休憩なしの下山となり体力的に非常に厳しいことや、十分な休憩を取った場合には、夜間の下山となり危険であることから、日帰りでの登山の実施は不可能であった。

(3) 下山の判断について

(当時の状況)

白山市に4日4時18分に大雨警報(土砂災害)が、5時8分に土砂災害警戒情報がそれぞれ発表されていた。

当初は7時の下山開始を予定していたが、気象レーダー等で降雨や雷雲の状況を見極めていた。下山開始時(8時40分)では、室堂周辺では若干雨が弱まってきていた。

また、県道白山公園線の通行規制の規制雨量に達する可能性があることは承知していたが、10時に規制をスタートするとは承知していなかった。加えて、土砂流出による国道157号線の通行止めも予想できないものであった。

(検証)

実際に下山を開始した8時40分時点は、室堂周辺では雨が弱まってきており、また、エコーラインを経由することでより安全に下山できると判断し、一刻も早く下山すべく、雷雲の切れ間を見計らい行動を開始したものである。

結果的に、県道白山公園線の通行規制が行われたが、下山開始時は、県道白山公園線の通行規制の規制雨量に達する可能性があることは承知していたものの、急激な降水量の増加による規制は予見困難であることや、知事として、災害対応にあたるため、一刻も早く県庁に戻る必要があることを考えれば、降雨や雷雲の状況を踏まえ、可能な限り早いタイミングで、下山が可能であると判断し、行動した結果であり、下山した判断はやむを得ないものであったと考えられる。

4. 県道の交通規制について

(当時の状況)

別当出合に到着した4日12時40分時点は、別当出合周辺は小雨状態、移動先である市ノ瀬も別当出合同様に小雨状態であった。

下山後、雨に打たれ体が冷え切った状態で一晩を過ごす可能性があったが、登山口である別当出合は、長時間滞在するための設備や装備が充実していないため、職員や帯同していたマスコミ各社の体調を考慮する必要があった。

(検証)

雨に打たれ体が冷え切った状態で長期間過ごすことは、健康面から考慮しても非常に危険であり、低体温症などを発症するリスクもあったことから、緊急避難的に衣食住の環境が整っていた市ノ瀬に移動したことは、やむを得ない判断であったと考えられる。

なお、今回のような通行規制時の下山者への対応については、今後の検討課題として、別当出合の施設や装備（備蓄品を含む）の充実に加え、県道白山公園線の地すべり防止対策など道路環境等の整備が必要と考えられる。